

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年7月20日(水)

### 《心の畑をもっと豊かに耕す》

今日の福音の話に入る前に、違う角度で一つ私が感じたことを皆様と分かち合いたいと思います。大体、皆様の頭にある色々な考え方とか思いは、自分のものだと思っていらっしゃるでしょう。自分が考えられる世界は、自分が悟ったり自分が得たりしてどうにか作られたことだと思っていますよね。しかし、殆どの部分は実際に耳にした他人のものが、自分も知らないうちに自分のものになっている場合が多いのです。そういう意味で教育の重要性をどの文化でも強調するわけです。

例えば、私と皆様が出会う前、私個人の考え方に接したことがない時、私が皆様の前で初めて話をした時には、受け入れるところもあるし受け入れないところもあるし、まあまあとして、過ぎてしまったところもあるかも知れません。しかし、私は5年間皆様と関わってして来ました。その5年間の間に皆様の考え方や言い方には、私の考え方が少なからず影響を与えていると思います。自分でも気がつかないうちに、いつか私から聞いた言葉が自分の言葉になって話したりしていることが結構あるのではないですか。

このような環境、頭の構造、働きを考えた時に、私たちはやはり出来るだけいいものを見ようと、そして出来るだけいいものを聞こうとする必要があることを意識しなければいけません。ですから環境、環境、環境が大切だと言うわけです。出来るだけ祈る人々と伴おうとする心、分かち合おうとする人と一緒にする心、これがあれば自分も知らないうちに自分自身も分かち合える者になり、自分も知らないうちに祈っている自分の姿が見えると思います。それも一つの心の働とを考えなければいけないと思います。

さあ福音(マタイ 13・1-9)に入りましょう。今日の福音は、実際に良い畑に落ちた種が、何十倍もの実を結ぶ話を強調する内容ではありません。もちろん、いい土地に種が落ちたら根を下ろしやすくなります。そして確かに実りやすくなる確率も高くなります。しかし、イエス様がおっしゃっている今日の内容は、そうではなくて“心の畑をどのように耕すのか”そこにポイントがあります。

私たちはミサに入ってすぐ『全能の神と兄弟の皆さんに告白します』と反省の心を表します。そして『私は、思い、言葉、行い、怠りによって……』と続けます。この四つの中で私が皆さんに今日話したいのは“怠り”についてです。

畑や田んぼと言えば一番手がかかることはなんでしょうか。農夫にとっては草取りです。一番疲れることでも、必ずやらなければいけないことです。何処の田んぼでも畑でも今は機械で行ってしまうようですが、十数年前は畑や田んぼを見たら、その持ち主がどの位精魂込めて働いているかがすぐ分かったのです。その草の出ている状態を見たら、どの位豊作になるかもすぐ見通せました。

結局、今日のメッセージは“自分の心の状態、自分の心の畑の状態”をどのように上手く活かせる

かの問題だと私は思います。

私たちはしょうがなく色々な環境に育っています。生まれて来る時も環境を選べません。不利な条件で生まれてくる場合もあります。そして、その環境で生まれて来たことを誰のせいにする事も出来ないでしょう。

草取りを何故しなければいけないのですか。一生懸命に抜いても、どんなふうにしても雑草の種が下されます。ということは私たちがどのような綺麗な環境に生まれても、生きていても、雑草の種は飛んできます。そういう意味で先に申し上げたように、出来るだけいいことを見ようと、いいことを聞こうとする自分の努力がなかったら、いつも雑草だらけの、草だらけの環境になってしまうのが私たちの人生だと思います。

皆様、どのような環境に私たちがいるかどうかは、たいしたことではないかも知れません。大事なことは今ここでどうすれば“この畑をもっと豊かに耕すことができるか”、それに取り組まなければいけないのが実際に私達に与えられた宿題ではないかと思います。

さあ、今日の福音をもう一度振り返ってみましょう。私の今の状態はどうなっているのか。毎日テレビのドラマばかり見ながら、そのドラマのような生活に囲まれているのではないか。毎日聖書の御言葉を黙想する環境で、自分の靈魂の救いのために、何か一つでも考えようとするその環境にいるかを振り返ってみましょう。

ありがとうございました。